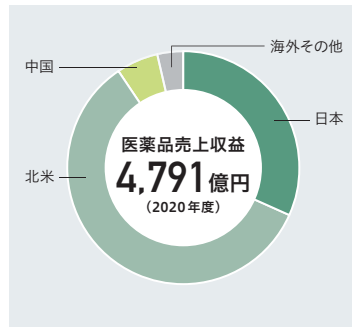


革新的な医薬品でプレゼンスを強化

地域別内訳

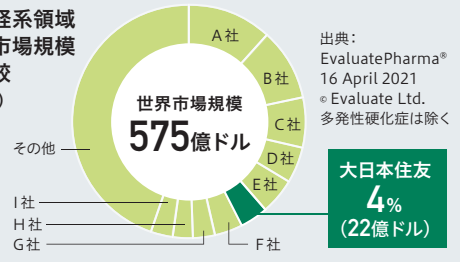


注力領域におけるポジション

精神神経領域(グローバル)

世界で約2,000億円を売り上げる非定型抗精神病薬「ラツーダ」をはじめ、当社は精神神経疾患治療薬市場における売上および開発パイプライン数で世界トップクラスとなっています。

精神神経系領域 治療薬市場規模 各社比較 (2019年)



北米市場 精神神経領域

ラツーダ

売上収益 2,065億円

適応症 統合失調症、双極Ⅰ型障害うつ

特長 ドパミンD₂、セロトニン5-HT_{2A}、セロトニン5-HT₇受容体にアンタゴニストとして作用するほかセロトニン5-HT_{1A}受容体にはパーシャルアゴニストとして作用する

対象疾患について

- 統合失調症は、幻覚、妄想、社会的引きこもり、自発性低下、認知機能障害、不安・抑うつなど、多彩な症状が認められ生活や就業就学が困難になる慢性疾患。米国では約240万人が罹患している。
- 双極性障害は、躁状態とうつ状態を繰り返す慢性的で深刻な疾患。主な症状は、抑うつ気分および興味・喜びの喪失、著しい体重減少、不眠、倦怠感、無価値観、集中力の低下、繰り返す自殺企図が報告されている。米国では約1,260万人が罹患している。

アプティオム

売上収益 257億円

適応症 部分てんかん発作(単剤/併用療法)

特長 現時点において、部分てんかん発作に対し、単剤療法および併用療法がFDAにより承認されている、唯一の1日1回投与の抗てんかん剤

対象疾患について

- てんかんは米国では4番目に多い神経疾患であり、約290万人が患っており、うち約46万人は0歳から17歳までの子どもである。

キンモビ 2020年9月上市

売上収益 2億円

適応症 パーキンソン病に伴うオフ症状

特長 アポモルヒネ(ドパミン作動薬)を有効成分として含有する舌下投与のフィルム製剤

対象疾患について

- 運動症状と非運動症状を特徴とする慢性かつ進行性の神経変性疾患。2030年までに、米国では約120万人が、世界では推定で1,000万人がパーキンソン病に罹患していると考えられている。
- オフ症状は、適切な薬物治療を行っても悪化または再発する運動症状および非運動症状であり、パーキンソン病患者さんの40~60%がオフ症状を経験している。

北米市場 がん、その他の領域

オルゴビクス(レルゴリクス®単剤)

2021年1月上市

売上収益 4億円

適応症 進行性前立腺がん

特長 米国で初めて承認された唯一の経口ゴナドトロピン放出ホルモン(GnRH)受容体アンタゴニスト

対象疾患について

- 米国では300万人超が前立腺がん罹患しており、男性が罹患するがんとして2番目に多く、男性のがんによる死因の第2位になっている。
- 2020年には約19万人が新たに前立腺がんの診断を受けたと推定されている。

マイフェンブリー(レルゴリクス®配合剤)

2021年6月上市

適応症 子宮筋腫

特長 米国で初めて1日1回投与の閉経前の女性の子宮筋腫に伴う過多月経を適応症として承認された治療剤

対象疾患について

- 米国では500万人の女性が子宮筋腫の症状に苦しみ、300万人の女性が現在の医療では不十分な治療を受けていると推定されている。

※レルゴリクスはマイオバント社が権利を保有する化合物です。当社グループはマイオバント社の発行済株式の約53%を保有しています。

ジェムテサ 2021年4月上市

適応症 過活動膀胱(OAB)

特長 添付文書に尿意切迫感回数のデータが掲載され、血圧上昇の警告がない、米国で初めて唯一のβ3アドレナリン受容体アゴニスト

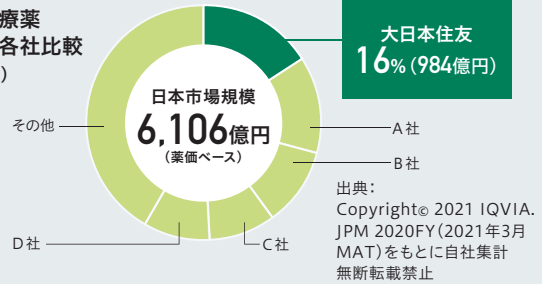
対象疾患について

- 米国では、3,000万人以上が尿意切迫感、切迫性尿失禁、頻尿、夜間頻尿などのOABの煩わしい症状に苦しんでおり、患者の日常生活にさまざまな影響をもたらす可能性がある。

糖尿病領域(日本)

当社は、DPP-4阻害薬「エクア」および配合剤「エクメット」に加え、GLP-1受容体作動薬「トルリシティ」、ビッグアニド薬「メトグルコ」、グリニド薬「シュアポスト」、SU薬「グリミクロン」と作用機序の異なるラインナップを幅広く有し、トップレベルのポジションを獲得しています。

糖尿病治療薬
市場規模各社比較
(2020年度)



日本市場 精神神経領域

トレリーフ

売上収益 162億円

適応症 パーキンソン病、レビー小体型認知症に伴うパーキンソニズム



特長 レボドパ賦活型パーキンソン病治療剤

対象疾患 ●日本におけるパーキンソン病患者数は約16万人。発症年齢は50～65歳に多く、高齢になるほど発症率が増加する。
●病勢の進行そのものを止める治療法は現時点では存在しないため、症状の程度によって適切な薬物療法や手術療法が選択される。

ラツォダ 2020年6月上市

売上収益 24億円

適応症 統合失調症、双極性障害におけるうつ症状



特長 北米市場を参照。

対象疾患 ●日本における統合失調症の患者数は約80万人。
●日本における双極性障害の患者数は約22万人。

ロナセンテープ

売上収益 13億円

適応症 統合失調症



特長 世界で初めて統合失調症を適応症として承認された経皮吸収型製剤

対象疾患 ●統合失調症については「ラツォダ」を参照。
●日本における双極性障害の患者数は約22万人。

(注)日本市場の売上収益は仕切価ベースの2020年度実績、「トルリシティ」は薬価ベースの売上。

日本市場 糖尿病領域

トルリシティ

売上収益 339億円

適応症 2型糖尿病



特長 ●週1回投与のグルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1)受容体作動薬
●1回使い切り専用ペン(アテオス)による自己注射剤

対象疾患 ●日本における糖尿病有病者数は約1,000万人と推計され、その大部分を占めるのが2型糖尿病である。
●治療の基本は運動療法と食事療法だが、血糖コントロールが十分得られない場合は、経口または注射の血糖降下薬を用いる。

エクア・エクメット

売上収益 401億円

適応症 2型糖尿病



特長 「エクア」: DPP-4阻害薬
「エクメット」: DPP-4阻害薬とメトホルミンを含む配合剤

対象疾患 ●2型糖尿病については「トルリシティ」を参照。

中国市場 感染症領域

メロペン (中国販売名:メム)

売上収益 225億円

適応症 一般感染症、発熱性好中球減少症



特長 多くの国で使用されている重症感染症の標準的治療薬